

事務局だより

第45回大会総会

議長 森 重 敏会長

事業報告 (太田垣事務局長)

会員数 886名(前年度よりの会員の移動状況は、入会者64名、退会者27名。物故者5名。)

会費納入状況

53年度まで納入された者	47.7%
52	30.3%
51	3.7%
50	9.2%

常任運営委員会開催

52年12月から53年9月に至る間に7回開催した。

シンポジウム関係報告

日時 52年6月13日 2時～5時

場所 慶応義塾大学三田校舎

主題 「現代社会における人間性回復」

司会 宮本 昇 (高千穂商科大学, 常任運営委員)

発言者

企業における人間性回復 久米 勝

(三菱電機顧問参事, 会員)

学校における人間性回復 宇多富久子

(杉並区立第9小学校校長)

家庭における人間性回復 北原歌子

(酒田短期大学, 会員)

地域における人間性回復 石津 元

(経営コンサルタント, 運営委員)

各分野における人間性回復という問題について活発な討議が交され、その具体化についても言及された。(参加者60余名)

機関誌発行

「応用心理学研究 第1号」が発刊され、本大会出席者に配付した。

会 計 報 告

昭和52年度会計報告 (昭和52年4月1日～53年3月31日)

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
前 年 度 繰 越	732,856	732,856	44 回 大 会 補 助	300,000	300,000
学 会 費	2,032,900	2,000,000	シンポジウム費	43,500	50,000
過 年 度 分	(852,900)	(800,000)	印 刷 費	921,390	1,250,000
本 年 度 分	(1,108,000)	(1,200,000)	名 簿	(316,000)	(300,000)
次 年 以 後	(72,000)		機 関 誌	(550,000)	(900,000)
雑 収 入	4,080	160,000	そ の 他	(55,390)	(50,000)
			通 信 費	268,050	620,000
			名 簿	(190,000)	(220,000)
			機 関 誌		(300,000)
			一 般	(78,050)	(100,000)
			さいころじすと	39,181	80,000
			連 絡 会 関 係	11,200	15,000
			運 営 委 員 会	42,150	35,000
			事 務 局 費	312,530	300,000
			ア ル バ イ ト 費	10,000	40,000
			予 備 費		202,856
			次 年 繰 越 金	821,835	
合 計	2,769,836	2,892,856	合 計	2,769,836	2,892,856

上記の通りであることを報告いたします。

日本応用心理学会事務局

昭和53年9月13日

監査の結果、相違ないことを確認いたしました。

亀 井 一 綱

山 崎 恒 夫

昭和 53 年度予算案

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前 年 度 繰 越	821,835	45 回 大 会 補 助	300,000
学 会 費	1,800,000	シ ン ポ ジ ウ ム 費	50,000
過 年 度 分	(600,000)	印 刷 費	1,160,000
本 年 度 分	(1,200,000)	機 関 誌	(1,100,000)
次 年 以 後	(50,000)	そ の 他	(60,000)
雑 収 入	100,000	通 信 費	600,000
		機 関 誌	(500,000)
		一 般	(100,000)
		さ い こ ろ じ す と	80,000
		連 絡 会 関 係	15,000
		運 営 委 員 会	45,000
		事 務 局 費	300,000
		ア ル バ イ ト 費	20,000
		予 備 費	151,835
合 計	2,721,835	合 計	2,721,835

上記予算案につきましては、常任運営委員会の了承をいただいています。

日本応用心理学会事務局

第 44 回大会決算報告

収 入 の 部	支 出 の 部
学会本部からの補助 300,000 大会会費 452,000 正会員 370,000(2,000円×185名) 当日会員 70,000(2,000円× 35名) 学 生 12,000(1,000円× 12名) 論文集代金 466,000 掲載料 220,000(2,000円×110名) 予約料 246,000(2,000円×123部) 懇親会会費 100,000 (2,000円× 50名) プログラム掲載広告費 92,000 寄 付 40,000	会場借用費 124,300 通信・郵送費 239,020 印刷費 303,600 論文集 198,000 1 号 通 信 12,600 2 号 通 信 (プログラム・原稿紙) 64,800 ポスター・掲示 28,200 懇親会開催費 248,465 講師旅費(非会員分) 70,000 勤労学生費 178,000 謝 金 120,000 昼・夕 食 費 58,000 会 合 費 76,410 会 議 費 51,410 運営委員会弁当代 25,000 事務用品・コピー代 166,669 雑 費 43,536
合 計 1,450,000	合 計 1,450,000

名誉会員推薦

北村晴朗, 松本 洋, 鶴田正一, 牛島義友, 以上4名が推薦され承認された。その他, 日本学会会議心理学研究連絡会, 心理学諸学会間連絡会の報告が, 関係委員より行なわれた。

次期大会開催校

関西学院大学武田正信会長によって行なわれることが

決定した。

運営委員の改選

第45回大会総会において, 前期選出の運営委員の任期が満了となり, 運営委員73名, 監査委員2名が推薦された。その後運営委員の間で常任委員の互選を行ない, 次のように決定した。

会長 武田正信 副会長 森重敏 事務局長 太田垣瑞一郎 幹事 平野馨

運営委員 (○印は常任)

秋葉英則	○安倍淳吉	新井康祐	○石毛長雄
石津元	乾孝	○今井省吾	遠藤辰雄
大塚博保	大平勝馬	○大村政男	○大脇三恵子
岡村一成	○奥沢良雄	長田一臣	○恩田彰
片山義弘	○兼子宙	金子秀彬	金子保
○亀井一綱	○神作博	岸田博	岸本英男
木村俊夫	○清宮栄一	久米康一	黒田正典
越河六郎	古武彌正	駒崎勉	○斎藤幸一郎
鈴木康平	鈴木達也	○高嶋正士	高橋哲也
竹内常雄	塚田毅	津守真	手塚太郎
豊原恒男	中川作一	中川大倫	中原弘之
○中村昭之	○永丘智郎	永田良昭	長塚康弘
長山泰久	新村豊甫	○西岡昭	○長谷川孫一郎
日高英行	広井甫	藤本喜八	藤原元一
○堀内敏夫	○正田亘	松井賛夫	○松村康平
松山安雄	真仁田昭	丸山欣哉	南博
○宮本昇	村井健祐	森清善	山崎恒夫
横瀬善正			(以上73名)

監査委員

大島貞夫 鳴澤実

名誉会員

淡路円治郎	秋重義治	天野利武	伊吹山太郎
牛島義友		狩野広之	北村晴朗
古賀行義	児玉省	近藤貞次	塩入円祐
鈴木清	鈴木信	鶴田正一	中村弘道
長谷川貢	平沼良	正戸茂	増田幸一
松井三雄	松本洋	真辺春蔵	宮孝一
山下俊郎	山根薫	山本晴雄	結城錦一

常任運営委員会

昭和53年 12月12日

出席者 武田, 森, 清宮他12名

新委員による第1回会合。報告事項: 第45回大会報告, 心理学諸学会間連絡会, 学術会議, 次回大会準備状況など。審議事項: 国際心理学記念基金運営委員に恩田彰委員, 機関誌編集委員長に正田亘委員を決定。その他例年行なう公開シンポジウムは, 今年は秋とし, 国際児童年ということも考慮することの発言があった。

昭和54年 1月30日

出席者 児玉, 堀内, 安倍他10名

報告事項: 諸学会連絡会, 学術会議。第46回大会におけるシンポジウムのテーマとオーガナイザーの予定が決定。

1. 高齢化社会の問題 太城教授 (関西大学)
2. コンピュータリゼーション 杉山教授 (関西学院

大学)

3. 公開講座 少年問題 篠置教授 (関西学院大学)
- その他, 事務局 (慶応) はすでに10年余り継続しているため, そろそろ移転を考慮してほしい旨, 事務局長より発言があった。

4月2日

出席者 亀井, 永丘, 神作他11名。

機関誌第2号につき, 正田編集委員長から報告され, 来る46回大会 (7月7・8日) までに発刊したい。内容も少し増やすにつき協力願いたいとの要望が出された。

名誉会員から初期の応心の様子を聞く会 (第3回) は4月2日常任委員会終了後, 増田幸一名誉会員を囲んで行なった。その内容は本号に掲載された通りである。(尚, 初回は故古賀行義名誉会員からの話で, 機関誌第1号に掲載し, 第2回は故小熊虎之助氏を囲んだ懇話会を行なっている。)